

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念の他に、みやびとしての姿勢や行動指針などを運営者・管理者・リーダーと共に新たに作成した。法人理念「安心・安全・安堵をモットーに私達は、常に向上心を持って心の通う運営を目指します。	○ ユニット個別の行動指針
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティング時や全体会議、朝礼で確認。玄関やユニットのエレベーターの前に掲示している。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	地域のかたとの交流につながるような新たな理念を構築し、家族会でも紹介した。	○ みやびの姿勢 地域の「笑顔」 私達は、地域において信頼度ナンバーワンを目指し地域社会に不可欠になるような存在になるように努めます。を作成し掲げている。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	川べりの散歩の際は挨拶して交流し植えられている花などを頂いて帰ることがある。事業所でバザーや夏祭りなどを開催し、地域の方へ還元したり相談窓口などを開催し交流を図っている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域での神社祭りや夏祭りに声かけして頂き参加して、序々にではあるが交流の場を広げている。	○ 今後、近隣の公園等の清掃活動をしていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	家族介護者教室を2ヶ月に1度開催し、地域の方への貢献につなげている。夏祭りなどで、介護相談のコーナーを設け、気軽に相談できるような環境づくりも考慮している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の評価より、計画作成者が3ユニットで話し合いの場を設け、書式や記録等において改善や研鑽に努めている。		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でのことを、運営会議や全体会議において、報告したりして改善に取り組んでいる。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日頃より、不明な点や必要に応じてメールや電話などで連絡を取り相談している。高年介護だけでなく、障害福祉や地域後見人制度利用者について連絡相談している。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域での研修参加や個々において、学習しているが、全体として取り組めていない。		
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束マニュアルを作成し各ユニットに設置している。勉強会、研修に行くことで理解に努めているが、職員の周知があまり出来ていない。	○	今後、勉強会、ミーティング等で理解含めて行くよう努める。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分に時間をとり、説明と納得いただけるよう質問や疑問点などの確認を取りながら進めている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に一度の介護相談員の訪問をうけており不満や苦情の聴取をして頂いている。ユニットのリーダーや管理者は会話を通じて不満や要望に対応している。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、請求書と一緒に活動状況等ユニットの便りで写真など載せお知らせし送付している。個々に状態の変化時やその他必要時または、定期的に連絡を取っている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やケアプランの説明時などに意見を伺ったり、家族会の際に尋ねたりしている。	○	家族会に今後 介護相談委員の介入を依頼していきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者が昨年一年間通し、提案改善箱を設置し、スタッフの意見を取り入れ話し合いをしたり、業務の改善に取り組んだ。現在、各ユニットでのミーティングなどで意見の活性化を推進している。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の安全に配慮し、身体状況や外出等必要に応じて柔軟に対応している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動は最低限度に抑えるように努めている。この一年での異動はない。</p>	
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>社会福祉協議会や市、グループホーム協議会の外部研修や内部研修とともに参加できる機会を設けている。研修後に報告書の提出をしている。OJT委員を設置し、職員の資質向上に努め計画立てて取り組んでいる。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会や市のグループホーム部会に参加し連携作りに努めている。月1回に他市を含むグループホーム計画作成者の集いを呼び掛けた交流も進めている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>各ユニットでの懇親会や全体での親睦会などの機会を持っている。管理者として、職員の勤務後の時間にコミュニケーションをとり、勤務に状況・身体的・精神的・家族プライバシーのストレスを把握しストレス発散やバーンアウトしないよう声かけしている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>資格取得にむけ、勤務調整行ったり、研修の受講をしている。年度末に個々で自己評価し、リーダーと管理者とスタッフで面談を実施している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居するにいたって、利用者に納得して頂けるように家族様に説明し、できる限り本人の同意を得るようにしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	担当ケアマネより情報を確認したりしている。自宅へ訪問したり、来所して頂いたりしている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談のケースに応じ支援のサービスあるいは、空き情報などの提供、グループホームの紹介などを行っている。紹介先に入居された場合、家族様よりその旨の情報を頂いている。2~3か月毎に待機の方へは、状況確認の連絡を入れたりしている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居するにあたって、安心して納得していただけるために、事業所の見学や入居体験の利用など工夫している。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者主体である事を常に意識している。個々の得意分野を把握し、食事づくり・趣味などの発揮できる場面を提供している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	月1回フロア便りを発行し日常生活活動の報告をしている。体調の変化やしばらく来訪のない家族様には、状況を手紙や電話で報告している。どのように支援をすれば、本人にとって良いのかを話せる関係を常日頃から意識し関係を築いている。	○	家族の方と一緒に外出し交流できる企画を考えていきたい。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時に此処での様子や心配事など本人交えて話をしている。家族の方と外出や散歩等を奨励し家族だけでの時間をもつことも大切にしている。	○	意識の中に家族の存在がある間に、良い関係が築けるように支援していきたい。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の生活状況 生活暦等の情報を家族の方から聞き取り馴染みの関係が継続できるように支援している。	○	以前住んでいた地域に出かけたり、よくしていた活動（カラオケ、ショッピング等）を行っている。
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士の関係を把握しそれぞれの居心地の良い空間を設けている。意思疎通が出来ない方には職員が入り会話できるように支援している。	○	廊下に椅子、テーブルを設置して入居者だけの空間を設けている。和室の活用をしていきたい。
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入居に至った関連施設の訪問や担当ケアマネと家族訪問、退居者様への手紙の送付などを行った。家族様の訪問をして頂けた。	○	季節的な挨拶（年賀状 暑中見舞い等）は、しているがそれ以上はしていない。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の何気ない会話から本人の思いをくみ取るように努めている。困難な場合は、本人の表情や拒否されること抵抗される事などから訴えたい事を把握しその方の求める暮らしに近づけるように支援している。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のサービス利用を把握すると共に、生活動作（炊事・洗濯・掃除）中の会話や面会で来られた家族の方に情報を提供してもらい記録しそれを活用できるようにしている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	サービス内容を実施するだけでなく、そのときの反応、表情 要因などを記録すると共に、総合的に1日を通しての申し送りをし記録に残し職員全員が把握するように努めている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人がより良く暮らせるために、日頃から本人、家族 事業所以外の関係者の意見を聴き課題となる事を職員全員で話し介護計画に活かしている。課題があると随時カンファするようになっている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に1度の見直しを基本にしているが、本人の日頃の状況の変化、家族 本人の要望に応じて見直しを行っている。現状に応じた計画を作成している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿ってサービス内容を実施しその内容過程を支援経過記録に記載し、情報を共有している。モニタリングを1か月ごとに行い効果の有無を確認し計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況、要望に応じて通院、美容院への送迎など柔軟に対応し、個々の満足を高めるように努めている。	○	自宅への外泊を支援している。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している		○	
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の他事業所と月1回計画者作成会議を実施しており、情報を共有し他のサービスを利用するための支援をしている。	○	他の施設と交流を持ち馴染みの関係ができればと考えている。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	相談のケースの見学などを受けている。実際利用につながったケースはない。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	○	希望する医療機関に対する受診は、基本家族同行であるが困難であれば職員が代行している。
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	主治医以外にもかかりわりをもった認知症専門医と交流をもっている。
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		施設でどのように生活しているか（介護アセスメントサマリー）を医療機関に提出している。
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		グループホームでの終末医療を行うことの同意書を作成中。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	スタッフが行える医療行為の緩和。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居 所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケ ア関係者間で十分な話し合いや情報交換を 行い、住み替えによるダメージを防ぐこと に努めている	入居される前の生活状況の情報交換を必ず行っ ている。またなじみの家具や普段使っていた 物、着ていた物を使用してほしいとお願いして いる。 退居される時、此処での生活状況や習慣、くせ など詳しく記録したものを事業所へ渡し安心し て暮らせるように支援している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ね るような言葉かけや対応、記録等の個人情 報の取り扱いをしていない	個々にあわせた尊厳ある対応をしている。開示 できるような記録をしている。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きか けたり、わかる力に合わせた説明を行い、 自分で決めたり納得しながら暮らせるよう に支援をしている	本人を尊重し画一的でない支援をしている。 無理強いせず納得しながら暮らせるように支援 している。		声かけでは掃除をしないが、居室に掃除用具を置 いておくと自ら掃除をされる。動機付けの支援を している。
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのでは なく、一人ひとりのペースを大切に、そ の日をどのように過ごしたいか、希望に そって支援している	その人の求める生活のペースを大切に、希望に 沿った支援をしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれがで きるように支援し、理容・美容は本人の望む 店に行けるように努めている	本人が希望される美容院へ家族の方と行かれて いる。家族の方が行けないときは、同行してい る。毛染めも本人の希望があり家族の承諾を得 てホームで職員がしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		週3回の食事づくりを実施し利用者の方の好きなもの食べたいものを献立に入れている。定期的に外食を楽しみにされている。
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	○	日々の生活をその人らしく過ごしていくなかで、定期的に音楽くらぶ、茶道クラブ、喫茶クラブなどに自律的に参加していただけるように取り組んでいる。


項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の方同意のもとその方の希望、能力に応じてお金を所持していただいたり使えるようにスタッフ一同支援している。	○	買い物時にレジでその方へ財布を渡し精算していただいている。利用者の方の小口現金をユニットで預かりいつでも使える様にしている。
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の方の希望に沿って、戸外に出かけている。	○	2日に1回は、食材の買出しに近隣のスーパーへ出かけている。天候の良い日は、いつでも散歩に出かけられるようにしている。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	定期的に個別や気のあった利用者同士、他のユニットの利用者の方たちと外出できるように支援している。	○	普段の会話から行ってみたい所を聴いておき定期的に個別外出の企画をしている。月1回は全体で行く外出を実施。月2回個別外出を実施している。家族の方へも、外出の同行を推進しているが、まだ実施されていない。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人自ら電話をされたり代行して取り次いだり出来るようにしている。	○	家族や親しい方への年賀状を出せるように支援している。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	スタッフ一同で家族等の訪問を歓迎している。	○	気軽に訪問していただけるような雰囲気を常に考え居室で過ごしていただいたりフロアで他の利用者を交え談話したりできるように努めている。
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについて勉強会や研修会に参加し正しく理解するように努めている。	○	身体拘束マニュアルを作成している。今後も定期的に勉強会を開き理解できるように取り組んでいく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者、スタッフ一同が、鍵をかけることの弊害を理解し取り組んでいる。	○	その方の能力に応じて開閉できるようになっている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜通して利用者の所在確認や様子をさりげなく伺いスタッフで情報を共有し、安全に配慮している。	○	利用者の様子 所在を時系列で確認しメモをとりスタッフで共有できるようにしている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状況 状態を把握し注意する物品、危険な物品の保管 管理に努めている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止マニュアルを作成し配備している。事故報告書、ヒヤリハットを記載し毎月集計、分析、対応策についてのカンファレンスを行って一人ひとりの事故の可能性について協議している。	○	今後リスクマネジメント委員会等を設置していき事故防止のために取り組んでいく。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急処置 事故発生時の初期対応の訓練や研修を定期的に行っている。	○	全てのスタッフが行えるように緊急処置 対応のマニュアルを掲示している。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的の避難訓練行っているが地域の人々の協力得られるような働きかけは出来ていない。	○	地域の方に協力してもらう為に運営促進会議で検討していく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>	日頃から利用者の家族の方に、生活状況を報告しており本人主体の生活を支援している事で起こりうるリスクについて話 理解を求めている。	
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	毎日定時に、また入浴前にバイタルを計測して体調管理に努めている。日々の生活で異変に気づいたときスタッフ間で情報を共有している。状態により看護師へ報告している。	
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	常に最新の服薬管理表を掲示して周知できるようにしている。	○ 一人ひとりの状態により服用しやすいように支援している。症状の変化や気づいた事があれば、受診・往診ノートに記載し往診時報告している。急を要すると思われるものは、主治医に連絡できるようにしている。
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	スタッフ一同 便秘の要因や及ぼす影響を理解しており、予防、対応に取り組んでいる。	○ 便秘予防のために毎朝食に、ヨーグルトを食べていただき食後のトイレを誘導している。
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	その方に応じて口腔ケア能力の維持に努め、口腔内感染症や呼吸器感染症の予防に留意している。	○ 寝る前の歯磨きを推進し歯間ブラシを一部介助で支援している。うがいの出来ない方には、歯磨き後、緑茶を飲んで頂くなどの支援をしている。
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	利用者個々の、摂食量、水分量を把握しバランスよく食べていただけるように支援している。	○ 自己にて水分を摂れない方、水分の代替（ゼリー果物等）など工夫したり多く食べれない方には、一皿に少量づづ盛り付けたりしてバランスよく摂取できるように支援している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染マニュアルを設置し予防 対応に取り組み実施している。	○	血液 体液 排泄物に触れる場合には、手袋を必須とし、うがい、手洗いを定例など感染に対する予防をしている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎年食中毒予防に関する講習に参加し衛生管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	安心して出入りできるように玄関まわり等を工夫している。ユニットの入り口には、利用者の製作した作品などを飾ったりしている。	○	通りに面して玄関があり広くとっているので圧迫感がなく周囲に花壇を設ける等の工夫をして出入りしやすいようにしている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間に朝日、西日などの自然の光が入り時間を体感できるような大きな窓があり不快に思われたらカーテンにより遮断することができる。フロアと台所がつながっているので食事の準備がわかりやすくなっている。また季節がわかるような掲示物など工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアに食事をするところだけでなく、テレビを見るソファや観賞植物を置き一人になれる空間を作ったり、廊下にもテーブルと椅子を置きどこでもくつろげる居場所を提供している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	本人が居心地よく過ごせるように、家族や本人 になるべく使い慣れたものを持ってきていた くようにしている。またタンスやベッドの位置 も本人の使いやすいように工夫して個々に合 わせている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に 応じてこまめに行っている	排気、給気を定期的に行っている。フロアに湿度 計を設置し加湿器を使用している。利用者の状 況に応じて行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活 かして、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している	居室からフロア、トイレへ移動する廊下に手す りを設けている。車椅子の方でも洗面所を使 えるように工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように 工夫している	共有の場所（風呂場、トイレ）に暖簾をつけた り目印をつけたりしている。大きな日めくり カレンダーを設置している。フロアで食事つ くりや毎日の味噌汁つくりをして感覚に刺 激を与えるように工夫している。	○	居室の表札づくりに取り組んでいる。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽 しんだり、活動できるように活かしている	テラスで洗濯物を干すだけでなく花壇やテー ブル椅子を設置し天気の良い日は、バーベ キューをしたり、お茶を楽しんだりして いる。建物の玄関口の花壇やイスを設 置しているので、活かしている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

開設して5年が過ぎました。事業所の理念 環境風土 行動指針を掲げそれを基盤にユニットの行動指針や心構えを作成しスローガンを掲げるまでに至りました。事業所の理念にあるように常に向上心をもっていただきたいと思います。外部評価や第三者評価によりサービスの提供を見直す事でまた新たにサービスの向上をはることが出来ます。利用者と職員の関係援助と同じ事が言えるとおもいます。一人では、なにも出来ない前へ進めない 全てにおいて関係を持つ事で支援が成り立っているのだとおもいます。

地域との交流、関係援助はまだできていませんが、これからだと思っています。利用者も職員も地元ではありませんが、5年間、近隣の散歩、道行く人へ挨拶 農作業する方へ声をかけ

を続けてきました。大きく目にみえての変化はありませんが、こつこつして行くことが大切だと思い地域のかたも理解をしめし関係援助が出来ていくと信じて邁進していきたいと思っています。